

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 11 月 25 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471900187
法人名	社会福祉法人慈照会
事業所名	グループホームゆうばえ
所在地	広島県三次市山家町607-12 (電話) 082-462-8801
自己評価作成日	平成 28 年 11 月 11 日
評価結果市町受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島
所在地	広島市東区福田1丁目167番地
訪問調査日	平成 28 年 11 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>医療機関及び介護施設に隣接している利点を生かし、認知症専門医の定期的な受診、健康管理に努め安心して暮らしてもらえる事業所を目指しています。また関連施設の協力を得ながら外出、行事を多く実施して利用者の皆様に四季を感じていただいたり、地域の方との交流を多く行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>平成11年1月、『社会福祉法人・慈照会』を母体とする保健・医療・福祉の各施設「ケアハウス」「デイサービスセンター」「居宅介護支援事業所」「養護老人ホーム」「特別養護老人ホーム」「介護老人保健施設」「ビハール花の里病院」が設立された。緑豊かな広大な敷地の一角に当事業所【グループホームゆうばえ】がある。開設から17年を迎え経験と実績を積み重ね、明るく元気な若い職員から経験豊富なベテラン職員が「笑顔・親切・やさしさ」を主眼とする理念のもとで、利用者一人ひとりの生活スタイルを尊重しながら、きめ細かな質の高いサービスの提供に努めている。同法人医師による定期健診が月に一度、看護師による健康チェックが2週間に一度行われ、24時間対応の充実した医療サポート体制が整えられており、利用者・家族の安心へと繋がっている。利用者は、四季折々に色合いが変化していく豊かな自然を肌で感じ、職員の優しさに包まれ傍で支えられながら、穏やかでゆったりとした毎日を過ごしている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	笑顔・親切・やさしさを事業者独自の理念とし、日々のケアに取り組んでいる。	法人理念「一人の子の命をまもるように人はすべてのものに対して限りなき慈悲心を抱かねばならない(仏典より)」を念頭に事業所独自の理念「笑顔・親切・やさしさ」を掲げ、更に事業所目標の『本来のグループホームの姿へたちかえる(一人ひとりの暮らし方に寄り添う)。(地域での暮らしを感じていただく)』も掲げている。職員は、会議等で話し合い・確認し合い、常に理念と目標を意識しながら日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のお祭り、イベントへ参加し、地域の人との交流をしている。又月1回の道路清掃へも参加している。	法人が自治会へ加入している。地域行事(秋祭り・敬老会・ふれあい祭りなど)積極的に参加をしている。又、毎月1回地域の女性会の方々が昼食作りに来られたり、事業所の行事「夕涼み会」では、地域のボランティア団体による手品や演芸の披露も行われ、地域の方々とのおふれあい・交流の時間を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人として認知症講演会を実施・参加の声掛けしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	奇数月の第3水曜日に開催し、行事等の声掛けをする。地域のボランティアが調理や慰問に来られる。	年6回、運営推進会議を開催している。参加メンバーは、高齢福祉課介護保健係の職員・民生委員・職員となっている。現状報告や意見交換が行われサービスの質の向上に努めている。	多方面からの会議参加メンバーを増やし、より充実した運営推進会議となるよう期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への参加、敬老会時の報告している。	運営推進会議への参加の他、日頃から気軽に相談や質問、情報交換が出来る良好な関係を継続している。又、行政主催の外部研修や地域密着型の事業所連絡会議へ積極的に参加するなど、協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないことを前提に、外へ出たい利用者には職員が付添っている。仕方なく玄関の施錠をすることもある。	法人全体研修の他、更に当事業所内でも研修を行ない職員教育を徹底し、身体拘束をしないケアを全職員で取り組んでいる。職員数が足りない時などは安全面の懸念から、止むを得ず玄関を施錠する事はあるが、基本玄関や出入り口の施錠は夜間のみとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体の変化に早急に対応、原因究明する。法人内での研修会に参加し、意識・知識を再確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	研修会の参加はしているが、現在支援はしていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前に文書で案内、説明し、いつでも質問に答えている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議への参加や、年1回の家族会や、家族の面会時には、要望を聞くようにしている	玄関に意見箱、重要事項説明書に苦情連絡先を明記している。年1回開催している家族会では、気兼ね無く皆で楽しい時間を過ごしながら家族からの意見や要望、情報交換が出来る機会となっている。又、利用者の写真が多く載せられている「ゆうばえ便り」を毎月発行しており、担当職員からのメッセージも添えて毎月家族へ送付されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議、個人の意見は常に問いかけて対応している	日頃から職員間のコミュニケーションが充分に図られており、意見や提案が遠慮なく話し合える良好な関係が築かれている。又、半期に一度個人面談が実施され、職員一人ひとりが掲げている目標の進捗状況の確認及び、意見や提案を聞く機会になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	6か月に1度、個人面談、人事評価を行っている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修会案内、参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同法人のグループホームとの交流を心がけている。三次市主催の地域密着型事業所の集まりに参加し交流をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接を行い、本人の意見を聞いて顔なじみになる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面接を行い、家族の意見を聞きいつでも連絡をとれる様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居してからの生活について説明し、重度化した場合の他のサービスについてもしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	個々の能力にあわせて出来る事を一緒にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時やゆうばえ便りにて本人の状況を報告している。月1回メッセージカードに本人の様子を記入して送っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族が面会時、一緒に外出されたり、個別に職員が買い物・外出・散髪など、一緒に行っている	希望する場所や買い物、美容院など利用者がこれまで築いてきた馴染みの関係・場所が途切れないように取り組んでいる。又、家族の協力を得ながら、通院介助も行なわれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食事以外でも食堂にて話したり、洗濯物を協力してたたんだり、隣の部屋同士の方に声をかけあったりされている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院時はお見舞いに行ったり、同法人内であれば、職員より状況を聞いたりしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護計画作成時本人の要望を聞くが、日頃の会話、行動で本人の意向を察するようにしている	本人・家族と充分話し合い、思いや意向の把握に努め、アセスメント情報として事細かくまとめられている。日頃の様子などから汲み取った新たな情報は、日誌等で記録に残し職員間で共有しながら、日常ケアや介護計画見直しにも反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に生活歴を記入、これまでのサービス利用についても聞き取りしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝の申し送り、職員会議で個々の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者がアセスメント、介護計画を作成し、6か月に一度の見直しを行っている。カンファレンスは両ユニット合同で行い、全体の把握に努めている	基本情報をもとに、本人・家族と充分に話し合い検討された暫定介護計画からスタートしている。約1ヶ月経過した段階でモニタリング評価を行ない、そのまま継続か、見直しが必要かを判断し正規の介護計画が策定されている。モニタリングは3ヶ月毎に実施し、特に変化が見られなくても必ず6ヶ月経過する度に、介護計画の評価・見直しが行なわれ現状に即した介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に記録し毎日報告している。休みの職員は必ずケア記録を確認、統一したケアに心がけている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日常の外出等、本人、家族の要望は聞き入れている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事には参加している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時、同法人の関連病院を主治医にする事で承得ている。月1回の定期受診、2週間に1度の健康チェックを行っている	敷地内に隣接する同法人の病院をかかりつけ医に変更して頂く事を契約時に説明をして承得ている。月1回の法人ドクターによる定期健診や2週間に一度の看護師による健康チェックが行われるなど、利用者の健康管理、フォロー体制が整えられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ビハール花の里病院に担当看護師があり、いつでも相談、受診し健康管理につとめている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来る限りの面会に行き、看護師や相談員に状況確認し、退院がスムーズにいこうにしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合の指針の説明をし同意を得ている。又主治医より家族に話してもらっている	本人と家族の今現在の気持ち・考えを把握する為、まずは契約時に「医療面・看取り介護等についてのご家族の意向調査」を行ない方針を共有している。利用者が重度化した場合など、必要な時期に再度話し合いを設け「看取りに関する指針」の説明を行ない、家族の理解と同意書を交わすことになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	心肺蘇生や事故発生時の研修をおこなっている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	同一法人内での訓練し相互的に協力している。ゆうばえ独自では利用者も含め避難訓練を行っている	隣接する同法人事業所と合同の消防避難訓練を消防署立ち合いのもと年2回実施している。更に当事業所単独での災害発生時訓練も行なっている。今年度、新たな試みとして隣接する介護老人保健施設の職員と当事業所の職員を入れ替えて、普段気付かない危険箇所などの再発見や改善に繋がる良い機会となった。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇委員会より毎月標語がだされ、毎朝声だして復唱している。	法人研修と当事業所内での研修を毎年行ない、理解を深め利用者のプライバシーに配慮したケアを心がけている。個人情報のファイル等は、事務所の施錠可能な棚で管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	嗜好品、おやつは預かってはいるが本人の要望に応じている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間は決まってはいるが、個々の食べれる時間に合わせている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	基本的には本人好みではあるが、外出時にふさわしくない場合着替えてもらう		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の誕生日には希望を聞き入れたり、外食したりしている。盛り付け、洗い物、下ごしらえを手伝ってもらう	メニュー作りから調理まで職員の手で行われ、皆で同じテーブルを囲み談笑しながらの楽しい食事タイムとなっている。利用者と職員が家庭菜園で育てた旬の野菜(キュウリ・茄子・トマト・大根・サツマイモなど)もメニューに取り入れられ、温かく美味しい食事が提供されている。又、ソーメン流しや月に一度の手作りオヤツの日を設けたり、時には外食に出掛けるなど職員の工夫がみられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事。水分量は毎回記録し、水分は1日1300cc以上を目安としている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	出来る人は毎食後、昼食後必ず全員行う。週2回の義歯消毒行う		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の動作や話によって、介助している。失禁しても早めの誘導はしないようにしている。	居室が3ブロックに分かれており、そのブロック毎に1箇所づつトイレを設置、食堂近くにも1箇所ある。職員は無理強いせず利用者のサインに気を配り、優しく自然なトイレ誘導を心がけている。又、利用者の状態に応じてポータブルトイレを使用する事もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェックし、便秘の方には牛乳や豆乳を飲んでいただいたり、水分量を増やしたり、薬で対応したりしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は毎日行っているが、拒否される方に声掛けやタイミングを工夫している。夜間は行っていない	利用者一人に対して週2～3回タイミングを見計らい入浴支援を行なっている。一般的な浴室タイプで、1日3人を目安としており利用者は、ゆったりとリラックスしながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々のその日の状態に合わせて休息してもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書を都度もらっていて、症状の変化を随時看護師に報告している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居前の趣味。家事等を把握し本人の力に合わせた役割をしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	全体での外出は月1回以上、している。個々の散歩は都度行っている	気候の良い時には、利用者と職員と一緒に散歩や家庭菜園の手入れに出掛けるなど、ホームにこもらず気分転換が出来るように支援している。月1回の外出行事や敷地内にあるレストランでのティータイム、利用者が家族と共に買い物等に出掛けることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金を持っている人は少ないが、近隣施設に購買者が来たときに買い物に行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	遠くの家族へは職員がかけて話してもらったり、家族の希望でハガキを書いてもらっている		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節のものを掲示したり、花を植えたりしている	2ユニット共通の事務室をセンターにして両サイドに各ユニットが並んでいる。それぞれのユニットは ゆったりとした回廊造りになっており中心には緑の中庭がある。家庭的なキッチンと食堂、浴室やトイレ、居室やコタツが置かれた居間などがバリアフリーでグルリと一周する形で繋がっている。要所要所に季節感漂う生花や作品などが綺麗に飾られ、暖かな日差しが降り注ぐ廊下には沢山の椅子が並べられ、利用者は思い思いにゆったりと寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各コーナーへ椅子・テーブルがある。夕方、両ユニットでおつとめすることにより、居間に座って談話することもある		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、できるだけ新品にしないように今まで使っていたものを持参してもらっている。	1ブロックに3つの居室があり、まるで”ご近所さん”の様に各部屋がまとまっている。洋室と和室の2タイプがあり、全ての居室に ベッド・収納家具・押入れ・エアコン・照明器具が備わっている。利用者は使い慣れた品を自由に持ち込み、自分好みの居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	てすり、椅子を置き、安全に自分で移動できるようにしている		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

3 サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。
「目標達成プラン」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/>	① 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="checkbox"/>	② 利用者へのサービス評価について説明した
		<input type="checkbox"/>	③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="checkbox"/>	④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他 ()
2	自己評価の実施	<input type="checkbox"/>	① 自己評価を職員全員が実施した
		<input type="checkbox"/>	② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="checkbox"/>	③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="checkbox"/>	④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他 ()
3	外部評価（訪問調査当日）	<input type="checkbox"/>	① 普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="checkbox"/>	② 評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="checkbox"/>	③ 対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="checkbox"/>	④ その他 ()
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	<input type="checkbox"/>	① 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="checkbox"/>	② 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	③ 市町へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="checkbox"/>	④ 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他 ()
5	サービス評価の活用	<input type="checkbox"/>	① 職員全員で次のステップに向けた話し合い、「目標達成プラン」を作成した
		<input type="checkbox"/>	② 「目標達成プラン」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニター依頼した（する）
		<input type="checkbox"/>	③ 「目標達成プラン」を市町へ説明し提出した（する）
		<input type="checkbox"/>	④ 「目標達成プラン」に則り、目標を目指して取り組んだ（取り組む）
		<input type="checkbox"/>	⑤ その他 ()

2 目標達成計画

事業所 グループホームゆうばえ

作成日 平成 29 年 1 月 31 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価をもとに職員一同で次のステップへ向けた取り組み目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎにならないよう、事業所の現状に合わせた取り組み課題を取り上げ、優先順位を決め目標達成に向けた具体的な取り組み内容を記入してください。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	参加される家族の方が、あまりあられない。	出来るだけ多くの家族の方に参加して頂く。	運営推進会議の開催日の変更や開催時間を検討する。	H29年度の運営推進会議
2	13	災害訓練の開催を今年初めて開催した。	避難訓練と同じく、災害訓練も定期的に開催し備えを再確認する。	年1回の開催	H29年度に1回の開催
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。